



弦楽合奏団

# エテルニータ

第14回コンサート

2017. 6. 25 [日]

14:00 開演 (13:30 開場)

宇都宮短期大学長坂キャンパス  
須賀友正記念ホール



# PROGRAM

## パッヘルベル カノンとジグ

J.Pachelbel / Kanon und Gigue für 3Violinen mit Generalbass

J.S.バッハ

## 2つのヴァイオリンの為の協奏曲 ニ短調 BWV1043

J.S.Bach / Konzert d-moll für 2Violinen, Streicher und Basso continuo

《ヴァイオリン独奏:田淵友子、山田耕司》

\*\*\* 休憩 \*\*\*

山田栄二

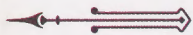
## 雪の百地蔵～弦楽合奏のための

チャイコフスキー

## 弦楽セレナーデ ハ長調 Op.48

P.I.Tschaikowsky / Serenade für Streichorchester C-dur Op.48





### パッヘルベル:カノンとジグ

パッヘルベルは、バロック時代に北ドイツのブクステフーデと並んで最高のレベルにあった中南部ドイツの作曲家で、特にオルガン音楽が高く評価されています。バッハの父や伯父とも交流があり、バッハもかなり影響を受けているようです。この曲の原曲は「3つのヴァイオリンと通奏低音のためのカノンとジグ」という室内楽作品ですが、今回のような弦楽合奏に編曲されたものがよく演奏されます。28回反復される低音旋律の上に、親しみやすい三声のカノンが進行していく高度な技法が用いられており、後に続く軽快なジグとセットになっています。ジグはイギリス生まれのテンポの速い3拍子系の舞曲で、バロック時代には組曲の最後に置かれていました。

### バッハ:2つのヴァイオリンの為の協奏曲 二短調 BWV1043

バッハには3つのヴァイオリン協奏曲がありますが、他の2つは独奏用で、2つのヴァイオリンのための作品はこの1曲だけです。3曲の中ではこの曲が最初に作曲されたと推測されており、少し古いスタイルの作風ですが、2つのヴァイオリンが綾をなして模倣しながら進行していく美しさは比類がなく、技巧的にも高度なテクニックを要求される聞きごたえのある作品になっています。

第1楽章 ヴィヴァーチェ 2分の2拍子

第2楽章 ラルゴ・マ・ノン・タント 8分の12拍子

第3楽章 アレグロ 4分の3拍子

### 山田栄二:雪の百地蔵〜弦楽合奏のための

エテルニータのために改訂した地蔵三部作の中で最初に書かれたもので、1985年の音楽展'85(楊枝郎 追悼演奏会)で演奏され好評を博した作品です。原曲は5台のマリンバのために書かれたもので、UPAによって初演されその後各地で演奏されました。

栃木県日光市の大谷川にある、含満が淵の百地蔵(通称“化け地蔵”)を訪れた時の印象を音楽化したもので、大きく三つの部分から出来ており、真ん中の部分では僧侶の読経が鳥の鳴き声と共に幻想的に鳴り響く、といったイメージで書かれています。今回の上演のために多くの改訂を行いました。前二作も含めて三部作が無事完成しコンサートで再演された事を、エテルニータの皆様へ深く感謝いたします。

### チャイコフスキー:弦楽セレナーデ ハ長調 Op.48

弦楽合奏のために書かれた作品の中でも屈指の名作で、人気度も高く、エテルニータも今までに何度かコンサートで演奏しています。

#### 第1曲「ソナチネ形式の小品」

チャイコフスキーはモーツァルトの音楽を手本にして書いたと言っています。印象的な力強く雄大な序奏を聞くと、とてもソナチネ形式の小品とは思えないし、16分音符で軽やかに動き回る第2主題も大変魅力的で、作曲者の腕の確かさを痛感します。

#### 第2曲「ワルツ」

チャイコフスキーはワルツが大好きで、多くの魅了的なワルツを残しましたが、この曲も西洋とロシアがうまく溶け合った美しい舞曲となっています。

#### 第3曲「エレジー」

エレジー(悲歌)ですが、二長調なので感傷的にはなり過ぎていません。ただし教会旋法の和声付けのせいでロシア的な雰囲気を感じます。

#### 第4曲「ロシア主題による終曲」

ロシア民謡の「青いリンゴの木の下」に基づく舞曲風な終曲です。最後に第1曲の序奏主題が堂々と再現され、全体の統一がなされています。



# Eternita

## 弦楽合奏団

ゲストトップ・指揮 諸岡 範澄  
 ヴァイオリン 青柳敬子 赤羽根洋子 \*奥村 琳  
 川俣洋子 小松崎倫子 \*高橋真二  
 土屋恵子 福富恵子  
 ヴィオラ 川沼文夫 ◎中村淑江 \*諸岡涼子  
 チェロ 荒川育子 ◎君島茂 瀬畑むつみ  
 コントラバス 増山一成

ステージマネージャー 小林俊夫(元日本フィル)

◎団友 \*エキストラ

## 弦楽合奏団 エテルニータ

「エテルニータ」とはイタリア語で「永遠」を意味します。  
 この弦楽合奏団は2000年03月に行われた宇都宮短期大学百周年記念コンサートで再会し、宇都宮短期大学附属高校音楽科(あるいは宇都宮短期大学音楽科)で学んだ有志で結成されました。

そして末永く活動していこうという願いを込めて「エテルニータ」と名付けたのです。

音楽に限らず、何かを学んでいくことに終わりはありません。私たちは世界中の偉大な作曲家達が残してくれた、数えきれないほどの作品に触れ、それを勉強することで少しずつ前進していこうという意思を持った音楽家の集まりです。



### ゲストトップ・指揮 諸岡 範澄

国立音楽大学器楽科卒業。1993年ブルージュ国際古楽コンクールアンサンブル部門第一位受賞(Trio van Beethoven)。これまで数多くの内外の演奏家との演奏会、CDレコーディングに参加。宗教曲、世俗曲を問わず声楽曲の通奏低音奏者としても豊かな経験を持つ。またモダン・チェロ奏者としてもソロ、室内楽等の分野で活躍する他、作曲も手掛ける。1999年「第13回古楽コンクール・山梨」審査員を務める。2000年韓国国立ソウル芸術大学におけるバロック音楽セミナー講師として、また漢陽大学学生による「コレギウム・ムジクム・漢陽」の指導者として招かれ度々訪韓している。2007～08年には西東京市主催企画「ベートーヴェンの学校」(校長・西原稔)音楽監督を務める。バロック・古典派にとどまらず、ロマン派から近・現代に至る幅広い指揮レパートリーを持ち、またプロ・アマチュアを問わず奏者の自主性を引き出す指導力にも定評がある。「下野楽遊奏楽塾」「ひたちなか楽友会」講師を歴任。現在「コンヴェルスム・ムジクム」「M.O.G.」メンバー。「東京五美術大学管弦楽団」「オーケストラ・Mzima」指揮者。「やまなしバッハアカデミー」講師。「オーケストラ・シンポジオン」音楽監督。



### エテルニータ顧問・作曲・編曲 山田 栄三

1948年宇都宮市に生まれる。宇都宮短期大学作曲科卒業。作曲を石黒脩三氏に師事。同短大と同附属高校の講師を務めた後、1984年から作曲、編曲活動に専念。作品にオペラ「ゆきと鬼んべ」「殺生石物語」「歌法師蓮生」「那須野巻狩り」「小山物語」、オペレッタ「不思議の国のアリス」、室内楽曲「博物誌」「動物園の情景」「フェアブル昆虫記」、大正琴と語り手のための「手無し娘」など多数。1999年県文化奨励賞受賞。



### ヴァイオリン[1st.] 田淵 友子

宇都宮短期大学附属高校音楽科を経て、東京芸術大学音楽学部卒業。第41回全日本学生音楽コンクール入選。89年ヴィクトリア(カナダ)JISA国際音楽祭参加。93、94年 霧島国際音楽祭参加、奨励賞受賞。蓼科高原音楽祭参加。97年 読売日本交響楽団に入団。2013～2016年まで2nd ヴァイオリン首席代行を務める。これまでに、田淵進、鷲見健彰、福富恵子、大谷康子、篠崎史紀、三戸康雄、景山誠治、浦川宜也、ベルタ・マウラー、日高毅の各氏に師事。JTアートホール、アフィニス・アンサンブル・セレクション出演等、室内楽など積極的に行っている。



### ヴァイオリン[2nd.] 山田 耕司

武蔵野音大附属高等学校を経て、武蔵野音楽大学卒業。これまでに、原孝太郎、掛合洋三、ロバート・ダビドヴィッチ、村上和邦、豊嶋泰嗣、室内楽をウルリッヒ・コッホの各氏に師事。卒業後、新星日本交響楽団(現、東フィル)、群馬交響楽団、神奈川フィル、新日本フィル、読売日本交響楽団などにエキストラ出演。94年 読売日本交響楽団に入団。2004年～2年間 2nd首席奏者を務める。室内楽奏者としても活動し、NHK FMリサイタル、'01年メキシコ シナロワ音楽祭出演、JTアートホール アフィニス・アンサンブル・セレクション出演等、積極的に行っている。